

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果の分析

逗子市立逗子小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

【 国語 】

《言葉の特徴や使い方に関する事項》

○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができている。

《情報の扱い方に関する事項》

○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができている。

《我が国の言語文化に関する事項》

○時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができている。

《話すこと・聞くこと》

○話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができている。

《書くこと》

○図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができている。

《読むこと》

○事実と感想、意見などとの関係を、叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができている。

○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができている。

《児童質問紙 国語に関する質問》

○国語の授業の内容はよく分かるという児童が多い。

○国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う児童が多い。

●国語の学習が得意な児童や好きな児童は3割程度。

●国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれると回答した児童は2割程度。

●国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれると回答した児童は2割程度。

【 算数 】

《数と計算》

○正答率が高く、基本的な計算能力が身につけていることが分かる。

●2位数÷1位数の筆算について図を基に各段階の商の意味を考える問題の正答率が下がる傾向にある。

《図形》

○正方形の意味や性質について理解している。

●直方体等の立体の見取り図を書くこと図形を構成する要素に着目すること、図形構成について考察することなど、問題を解決するための諸要素に見通しをもち、筋道を立てて考え、その考え方や解決方法を説明することに課題がある。

《変化と関係》

○比例関係を活用したり、割合を求めたりするなど、二つの数量の関係について考察する力が身に付いている。

●伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述することに課題がある。

《データの活用》

○資料から必要とする情報を取捨選択することができている傾向にある。

《児童質問紙 算数に関する質問》

○算数の学習を、実生活と結び付けて考えたり、その有効性を実感したりしている児童が多い。

【 理科 】

《「エネルギー」を柱とする領域》

○アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、についてよく理解している。
○乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶことがおおむねできている。

《「粒子」を柱とする領域》

○水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解している。
○水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解している。

《「生命」を柱とする領域》

○ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いている。
○顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いている。
●レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる問題に対して正答率が半分以下であった。記述式であるため、自分の言葉で書くことに悩んだ児童がいると考察した。

《「地球」を柱とする領域》

○【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶことができている。
●赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる問題に対して正答率が半分以下であった。記述式であるため、自分の言葉で書くことに悩んだ児童がいると考察した。

【児童質問紙の結果 特徴的なことや課題と考えられること等】

- 基本的な生活習慣（毎日朝食を食べる、決まった時間に寝起きする等）が整っている児童の割合が高い。
- 自己肯定感が高い児童の割合が、国や県と比較して高い。
- 将来の夢や目標をもっている児童の割合が国や県と比較して高い。
- 学校に通うことや、日々の友達との関わりに関して、肯定的にとらえている児童の割合が高い。
- 学校の授業以外で（塾を含む）勉強をしていると答える児童の割合が国や県と比較して高い。
- ICT 機器の学習利用について肯定的にとらえている児童の割合が国や県と比較して高い。
- いじめに対する意識が国や県と比較して低い。
- 本が自豊富にある家庭が少ない。
- 地域や社会のために何かしてみたいと考える児童の割合が国や県と比較して低い。
- 学習で躓いたとき、教師が教えてくれるという安心感をもっている児童の割合が国や県と比較してやや低い。

◎調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

- ・自分の考えを表現する学習の際は、他者により理解してもらうことを考えながら取り組めるよう学習内容を工夫していく。
- ・塾に通っている児童が多いこともあり、通っていない児童との学力に差が生じないようにするためにも学力差や学習進度差があっても個々に最適な学びができるよう指導内容を吟味していく。
- ・今後も ICT 機器の効果的な活用方法を指導し、実践することを通して ICT を使用することによって学びがより広がったり深まったりするという経験をさせていきたい。そのためにも、教員の ICT 技能の向上を図っていく。また、児童自身が ICT を有効的に使える場面なのかどうかを考えることができるようにしていく。
- ・道徳の学習や学校生活アンケート等を利用して、いじめに対する意識を啓発していく。
- ・逗子をよりよくするために、自分たちができることを考え、計画し、実践する学習等、地域を主とした学習をさまざまな教科に取り入れ、児童が主体的に学習に向かえるようにする。
- ・児童が、学習を進める際に分からないことをそのままにせず、安心して質問できるような授業づくりを展開していく。また、児童一人ひとりに寄り添い、児童の実態に合った支援をしていく。